

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
科学的根拠に基づく呼吸器核医学診断(診療)ガイドライン 日本核医学会 分科会 呼吸器核医学研究会 呼吸器核医学診断ガイドライン作成委員会 編 発行, pp74-76, 2008.	^{18}F -FDG PETは孤立性肺結節の鑑別診断に有用か. ^{18}F -FDG PET/CTは孤立性肺結節の鑑別診断に有用か.	村上康二	大学病院 PETセンター
科学的根拠に基づく呼吸器核医学診断(診療)ガイドライン 日本核医学会 分科会 呼吸器核医学研究会 呼吸器核医学診断ガイドライン作成委員会 編 発行, pp77-79, 2008.	^{18}F -FDG PETは肺癌の病期診断・再発診断に有用か.	村上康二	大学病院 PETセンター
科学的根拠に基づく呼吸器核医学診断(診療)ガイドライン 日本核医学会 分科会 呼吸器核医学研究会 呼吸器核医学診断ガイドライン作成委員会 編 発行, pp80-85, 2008.	^{18}F -FDG PETによる肺癌縦隔リンパ節転移の診断精度は胸部CTより優れているか.	村上康二	大学病院 PETセンター
科学的根拠に基づく呼吸器核医学診断(診療)ガイドライン 日本核医学会 分科会 呼吸器核医学研究会 呼吸器核医学診断ガイドライン作成委員会 編 発行, pp86-87, 2008.	^{18}F -FDG PETは肺癌放射線治療計画に役立つか.	村上康二	大学病院 PETセンター
Annals of Nuclear Medicine 22: 103-109, 2008.	Performance of FDG-PET/CT in the diagnosis of recurrent endometrial cancer.	Kitajima K, Murakami K, Yamasaki E, Hagiwara S, Fukasawa I, Inaba N, Kaji Y, Sugimura K	大学病院 PETセンター
Hepatogastroenterology 55: 398-402, 2008.	Positron emission tomography for preoperative staging in patients with locally advanced or metastatic colorectal adenocarcinoma in lymph node metastasis.	Kosugi C, Saito N, Murakami K, Ochiai A, Koda K, Ono M, Sugito M, Ito M, Oda K, Seike K, Mivazaki M	大学病院 PETセンター
Eur J Nucl Med Mol Imaging 35: 1912-1920, 2008.	Diagnostic accuracy of integrated FDG-PET/contrast-enhanced CT in ovarian cancer: comparison with enhanced CT.	Kitajima K, Murakami K, Yamasaki E, Domeki Y, Kaji Y, Fukasawa I, Inaba N, Suganuma N, Sugimura K	大学病院 PETセンター
AJR 190: 1652-1658, 2008.	Accuracy of ^{18}F -FDG PET/CT in detecting pelvic and praaortic lymph node metastasis in patients with endometrial Cancer.	Kitajima K, Murakami K, Yamasaki E, Fukasawa I, Inaba N, Kaji Y, Sugimura K	大学病院 PETセンター
Neuropsychiatry Clin Neurosci 20: 302-308, 2008.	Hippocampal and amygdalar volumes in breast cancer survivors with posttraumatic stress disorder. J	Hara E, Matsuoka Y, Hakamata Y, Nagamine M, Inagaki M, Imoto S, Murakami K, Kim Y, Uchitomi Y	大学病院 PETセンター
Clinical Radiology 63: 1213-1227, 2008.	Dual time point FDG-PET/CT imaging. Potential tool for diagnosis of breast cancer.	Zytoon AA, Murakami K, M. R. El-Kholy, E. El-Shorbagy	大学病院 PETセンター

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Breast Cancer 15: 224-230, 2008.	PET/CT supports breast cancer diagnosis and treatment.	Hayashi M, Murakami K, Oyama T, Domeki Y, Hagiwara S, Katsumata D, Sunagawa M	大学病院 PETセンター
World Journal of Surgical Oncology 6: 2008.	Middle bile duct cancer with portal vein tumor thrombus.	Shimoda M, Iso Y, Tomita S, Fujimori T, Murakami K, Sawada T, Kubota K	大学病院 PETセンター
Pharma Medica 26: 45-50, 2008.	肺炎・肺癌 up to date: 画像診断; PET.	村上康二	大学病院 PETセンター
呼吸器科 13: 147-153, 2008.	肺癌診断-最近の動向- 肺癌診療におけるFDG-PET (PET/CT) の役割.	北島一宏, 村上康二, 山崎英玲奈, 百目木泰, 楯靖	大学病院 PETセンター
画像診断 28: 322-331, 2008.	乳癌におけるFDG-PET (PET/CT) の有用性.	北島一宏, 村上康二, 山崎英玲奈, 楯靖, 百目木泰, 林光弘, 砂川正勝	大学病院 PETセンター
呼吸器科 13: 147-153, 2008.	特集-肺がん診断-最近の動向 肺癌診療におけるFDG-PET (PET/CT) の役割.	北島一宏, 村上康二, 山崎英玲奈, 百目木泰, 楯靖	大学病院 PETセンター
胆と膵29: 78-80, 2008	胆・膵画像疾患のキーワード<第3回> Capsule -like rim (自己免疫性膵炎).	北島一宏, 村上康二	大学病院 PETセンター
胆と膵29: 172-173, 2008	胆・膵画像疾患のキーワード<第4回> Penetrating duct sign.	北島一宏, 村上康二	大学病院 PETセンター
胆と膵29: 260-261, 2008	胆・膵画像診断のキーワード Central dot sign <第5回> (胆嚢腺筋症)	北島一宏, 村上康二	大学病院 PETセンター
早期大腸癌12: 161-166, 2008.	CT Colonography (4) PET-CT Colonography とは -原理、処理された画像の種類-	村上康二, 北島一宏, 山崎英玲奈, 百目木泰	大学病院 PETセンター

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
胆と膵 29: 360-361, 2008	胆・膵画像診断のキーワード Central dot sign <第6回> (カロリー病)	北島一宏, 村上康二	大学病院 PETセンター
胃と腸 43: 961-968, 2008	大腸の新しい画像診断 PET (PET/CT) による大腸腫瘍性病変の診断	村上康二	大学病院 PETセンター
PETの意義23 1005-1012, 2008	食道疾患の臨床 update 第6章食道癌 7.	百目木泰, 村上康二, 山崎英玲奈, 北島一宏, 岸本グスタボ, 宮地和人, 佐々木欣郎, 砂川正勝	大学病院 PETセンター
胆と膵29: 452-455, 2008.	胆・膵画像診断のキーワード<第7回> Diffusion weighted image (拡散強調画像).	北島一宏, 村上康二	大学病院 PETセンター
胆と膵29: 564-566, 2008.	胆・膵画像診断のキーワード<第8回> Fat Suppression MR Imaging (脂肪抑制画像).	金親克彦, 村上康二	大学病院 PETセンター
胆と膵 29 : 658-660, 2008	胆・膵画像診断のキーワード<第9回> 3 Tesla MRI (テスラ)	北島一宏, 村上康二	大学病院 PETセンター
胆と膵29 : 772-775, 2008	胆・膵画像診断のキーワード<第10回> Gd-EOB-DTPA (肝胆道用MRI造影剤).	金親克彦, 村上康二	大学病院 PETセンター
成人病と生活習慣病 38: 1085-1089, 2008	特集/ここまでわかる消化管疾患の画像診断 PET-CT colonography.	村上康二, 北島一宏, 山崎英玲奈, 松浦晃	大学病院 PETセンター
気管支学 30:347-353, 2008.	ミニ特集 肺癌の縦隔リンパ節転移診断-画像と内視鏡診断「PET-CT」.	村上康二	大学病院 PETセンター
大腸癌Frontier 1: 269-273, 2008.	大腸癌遠隔転移の治療方針: PET/CTによる画像診断.	村上康二, 山崎英玲奈, 北島一宏, 松浦晃	大学病院 PETセンター

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
田中聡, 他編, エサップ社, 東京, pp50-53, 2008.	両側前頭葉を広くに浸潤する石灰化を伴う腫瘍 脳腫瘍実践ケーススタディ第1巻.	植木敬介	大学病院 腫瘍センター
Histopathology 52: 183-193, 2008.	Pleomorphic xanthoastrocytoma: a comparative pathological study between conventional and anaplastic types.	Hirose T, Ishizawa K, Sugiyama K, Kageji T, Ueki K, Kannuki S:	大学病院 腫瘍センター
Neurosurgery 63(Suppl 1): ONS188-190, 2008.	Newly designed ergonomic surgical binocular telescope with angulated optic axis.	Kim P, Joujiki M, Suzuki M, Ueki K, Amano Y:	大学病院 腫瘍センター
35: 911-913, 2008.	グリオーマの遺伝子解析と遺伝子診断 癌と化学療法	植木敬介:	大学病院 腫瘍センター
田中聡, 他編, エサップ社, 東京, pp50-53, 2008.	両側前頭葉を広くに浸潤する石灰化を伴う腫瘍 脳腫瘍実践ケーススタディ第1巻.	植木敬介	大学病院 腫瘍センター
Histopathology 52: 183-193, 2008	Pleomorphic xanthoastrocytoma: a comparative pathological study between conventional and anaplastic types.	Hirose T, Ishizawa K, Sugiyama K, Kageji T, Ueki K, Kannuki S	大学病院 腫瘍センター
Neurosurgery 63(Suppl 1): ONS188-190, 2008.	Newly designed ergonomic surgical binocular telescope with angulated optic axis	Kim P, Joujiki M, Suzuki M, Ueki K, Amano Y	大学病院 腫瘍センター
Pathol Int 58: 84-88, 2008.	LKB1 protein expression in neuroendocrine tumors of the lung.	Randa MSA, Hiroshima K, Iyoda A, Hoshi K, Honma K, Kuroki M, Kokubo T, Fujisawa T, Mivagi Y.	大学病院 腫瘍センター
社団法人日本内科学会専門医部会編, 社団法人日本内科学会, 東京: pp4, pp125, 2008.	2. 消化器 問題3. 生涯教育のためのセルフトレーニング問題と解説.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
社団法人日本内科学会専門医部会編, 社団法人日本内科学会, 東京: pp5, pp126, 2008.	2. 消化器 . 問題4. 生涯教育のためのセルフトレーニング問題と解説	中村哲也	大学病院 医療情報センター

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
社団法人日本内科学会専門医部会編, 社団法人日本内科学会, 東京: pp6, pp129, 2008.	2. 消化器 問題8. 生涯教育のためのセルフトレーニング問題と解説.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
長廻絃編, 文光堂, 東京: pp33-34, 2008	3. 十二指腸の解剖. III. 上部消化管の解剖. 消化管内視鏡診断テキスト① 食道・胃・十二指腸 第3版.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
長廻絃編, 文光堂, 東京: pp270-274, 2008.	1. 十二指腸の観察. VI. 十二指腸. 消化管内視鏡診断テキスト① 食道・胃・十二指腸 第3版.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
長廻絃編, 文光堂, 東京: pp275-287, 2008.	2. 十二指腸潰瘍. VI. 十二指腸. 消化管内視鏡診断テキスト① 食道・胃・十二指腸 第3版.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
長廻絃編, 文光堂, 東京: pp288-293, 2008.	3. 十二指腸炎. VI. 十二指腸. 消化管内視鏡診断テキスト① 食道・胃・十二指腸 第3版.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
長廻絃編, 文光堂, 東京: pp294-307, 2008.	4. その他の十二指腸良性病変. VI. 十二指腸. 消化管内視鏡診断テキスト① 食道・胃・十二指腸 第3版	中村哲也	大学病院 医療情報センター
長廻絃編, 文光堂, 東京: pp308-309, 2008.	5. 十二指腸憩室. VI. 十二指腸. 消化管内視鏡診断テキスト① 食道・胃・十二指腸 第3版.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
Laser Therapy 17: 159-166. 2008.	Safety guidelines for performing photodynamic therapy (PDT) on digestive tract.	Nakamura T, Narahara H, Matsui H, Tanaka T, Nishiwaki Y, Muto M, Shirakawa K	大学病院 医療情報センター
Proceedings of 11th World Congress of the International Society for the Disease of the Esophagus, Budapest (Hungary), Sept. 10-13, 2008.	Esophageal capsule endoscopy versus magnifying endoscopy for detecting esophageal lesions.	Nakamura T, Yamagishi H, Oinuma T, Masuyama H, Terano A	大学病院 医療情報センター
J. Synchrotron Rad. 15: 535-537, 2008.	SaxsMDView: A three-dimensional graphics program for displaying force vectors.	Kojima M, Kezuka Y, Nonaka T, Hiragi Y, Watanabe T, Kimura K, Takahashi K, Yanagi S. Kihara	大学病院 医療情報センター

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biochim Biophys Acta. 1784: 834-842, 2008.	Dynamics of oligomer formation by denatured carbonic anhydrase II.	Prokhorov DA, Timchenko AA, Uversky VN, Khristoforov VS, Kihara H, Kimura K, Kutysenko VP	大学病院 医療情報センター
Mumps, J. MTA-J 24: 21- 25, 2008.	医事システムと連動した POS レジの開発.	土屋喬義, 田中千 恵子, 木村一元	大学病院 医療情報センター
Photon Factory Activity Report 25: 246, 2008 (Web version)	Comparative analysis of solution structure of two isoforms of rabbit elongation factor eEF1-A by SAXS technique.	Timchenko A, Serdyuk I, Negrutskii B, Novosylina A, Deryusheca E, Prituzhalov E, Kimura K, Kihara H	大学病院 医療情報センター

計 6 2 3

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 北 島 敏 光		
管理担当者氏名	庶務課長 影 山 善 久	医事保険課長 渡 邊 栄	
	診療記録管理部 中 野 雄 司	医療安全対策課 五 月 女 弘 実	
	連携医療部 麻 生 保		

		保 管 場 所	分 類 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		診療記録管理部 薬剤部 手術部	カルテ、エックス線写真とも入院・外来を含む1患者1ファイル方式として管理している
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	
	高度の医療の提供の実績	医事保険課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事保険課	
	高度の医療の研修の実績	庶務課	
	閲覧実績	庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	連携医療部 医事保険課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課 薬剤部	
確規 保則 の第 状 9 況条 の 2 3 及び 第 1 条の 1 1 各号 に掲 げる 体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染防止対策課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策課	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策課		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染防止対策課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染防止対策課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染防止対策課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染防止対策課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	経理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経理課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経理課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経理課		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長 中 田 英 夫
閲覧担当者氏名	庶務課長 影 山 善 久
閲覧の求めに応じる場所	事務部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	47.3 %	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	19,379	人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,622	人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	3,574	人
	D: 初診の患者の数	52,477	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規程第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

①専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	㊟ (1名)・無
②専任の院内感染対策を行う者の配置状況	㊟ (1名)・無
③医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	㊟・無
<p>・所属職員：専任（5）名〈専任安全管理者1名含む〉 兼任（2）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>組織横断的に院内の安全管理を担う部門として医療安全管理部医療安全対策課を置き、次に掲げる業務を遂行している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全管理委員会、医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会、リスクマネジャー小委員会及び医療事故対策委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会等の庶務に関すること。 2) 医療事故防止対策マニュアルの改訂についての企画、原案の作成、各種委員会への提案及び制定に関すること。 3) 医療安全に関する院内パトロールの実施に関すること。 4) インシデント・アクシデント情報の収集、分析と改善策立案に関すること。 5) インシデント・アクシデント情報に関する改善策の依頼、助言、実施及び評価に関すること。 6) 医療安全対策研修会の開催（講習内容・講師選定・運営・まとめ）に関すること。 7) 厚生労働省が推進する医療安全対策ネットワーク事業に伴う、インシデント・アクシデント情報の報告〔報告先：(財)日本医療機能評価機構〕に関すること。 8) 医療安全対策院内広報誌（医療安全対策課広報・毎月1回発行）の発行に関すること。 9) その他、医療安全対策に係る連絡調整に関すること。 	
④当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	㊟・無
⑤医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊟・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的考え方と長期的目標 <p>【基本方針】</p> <p>厚生労働省の基本方針に沿って本院においてもこれを基本方針として取り組みを進めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 安全管理のための病院指針の整備 ② 安全管理のための医療事故等院内報告制度の整備 ③ 安全管理のための委員会の定例開催 ④ 安全管理のための職員研修の開催の義務化 <p>【長期的目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 患者様最優先の医療を徹底する。 ② 患者様の満足度を高める医療を行う。 ③ 医療従事者は、常に「危機意識」を持ち業務にあたる。 ④ 医療行為においては、確認・再確認・相互確認等を徹底する。 ⑤ 患者様との円滑なコミュニケーションとインフォームドコンセントに配慮する。 	

- ⑥ 記録は正確かつ丁寧に記載し、チェックを行う。
- ⑦ 情報の共有化を図る。
- ⑧ 自己の健康管理と職場のチームワークのもとにチーム医療を遂行する。
- ⑨ 医療事故防止のための教育・研修システムを実行する。

また、この他に病院の理念を下記のとおり定めている。

- ① 高度で良質な医療の提供
- ② 医療倫理の徹底
- ③ 医療の進歩への貢献
- ④ 良質な医療人の育成
- ⑤ 連携医療の構築

2. 医療安全管理に関する各種委員会・組織等の活動と改善の方策

① 医療安全管理委員会

獨協医科大学病院の医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立するための委員会の1つである。委員会は、病院長の諮問に応じ所掌業務について調査審議し、経過又は結果を病院長に報告する他、所掌業務について病院長に建議する。委員会は定例的に毎月1回とし、随時必要に応じて開催する。

② 医療事故対策委員会

病院長を委員長とした委員会で、大学病院運営委員会常任委員会の委員をもって構成する。委員会は発生した医療事故の報告を受け、事故の対策にあたる。

③ リスクマネジャーの配置

医療安全管理委員会は、病院全体の立場から事故防止に関する諸問題を検討し決定する組織であるが、これとは別に、実際にそれぞれの医療現場で事故防止の取り組みを行う体制を整備するため、その中心的な役割を担う教職員として、「リスクマネジャー」を任命（79名）しており、インシデント事例の報告内容の把握、検討等を行い、医療事故の防止の任にあたっている。

④ 医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会

医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会は、各部門と医療安全管理委員会とを結ぶ役割を担うものであり、両者の密接な連絡を図ること、さらに医療事故防止対策を実効あるものとするために、医療安全管理委員会の下部組織としてリスクマネジャー委員会を設置している。委員会は、医療安全管理委員会の方針に添って事故の分析や安全対策の具体策について調査検討する。

なお、事故に繋がりやすい項目については、リスクマネジャー小委員会（薬剤、誤認防止、事例分析、転倒・転落、インフォームドコンセント、職員の安全管理、ルート管理、深部静脈血栓症）に分かれ、発生原因の分析・改善策の立案及び改善策実施状況の検証を行っている。

⑤ 病院診療部長会議、病院連絡会

病院診療部長会議、病院連絡会等の会議を通じて、医療安全管理委員会、医療事故対策委員会、医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会等からの事項を周知させている。

3. アクシデント・インシデント報告について

医療事故（＝アクシデント）は、医療が行われる場所で医療の全過程で発生する全ての人身事故を包含する言葉として使用し、医療従事者に「過失がない」場合と「過失がある」場合を問わない。このような場合には、速やかにアクシデント報告（インシデント・アクシデント報告分析支援システム「アクシデント報告画面」を用いた報告）を行うこととしている。しかし「過失がある」場合は、これを分けて「医療過誤」と称する。例えば、医療の過程において医療従事者が

当然払うべき業務上の注意義務を怠りこれによって患者に障害を及ぼした場合をいう。これについては、アクシデント報告（インシデント・アクシデント報告分析支援システム「アクシデント報告画面」を用いた報告）を行うとともに、「問題（又は問題となりうる）事例届（規程別紙様式2）」を提出することとしている。

また、インシデントについては、日常診療の現場で、“ヒヤリ”としたり“ハッ”とした経験について、インシデント報告（インシデント・アクシデント報告分析支援システム「インシデント報告画面」を用いた報告）を行うこととしている。

なお、インシデント報告に当たっては、当該報告をしたことを理由に不利益となる処分は行わないこととしている。

4. 医療安全の管理のための職員研修に関する基本方針

医療安全対策の取り組みを進める上で、教職員一人ひとりが安全に対する意識を高め、対応能力の向上を図ることが重要であることを踏まえて、教職員の教育・研修を行っている。職種別、部署別に医療安全対策に対する検討、又は研修会を随時行う他、全教職員を対象とする研修会を年2～4回行い、医療事故防止に対する意識の高揚を図ることとしている。

5. 医療事故（医療過誤）発生時の対応

医療事故が発生した場合、事故かニアミスか、また、事態が病院側の過誤に起因するのかそうではないのかとの判断は極めて重要なことではあるが、まず、患者サイドに立ち当院として対応すべき基本となることを明記した。従って、本対応は主として相当に重大な事故が発生した場合を念頭に置きつつ、事故かどうか判然としないような場合も視野に入れた内容としている。

6. 安全管理体制についての情報開示について

病院の安全管理体制は患者にとっても重要な関心事項であることを考慮して、秘密保護が必要な情報を除き、ホームページにて情報開示している。

⑥医療に係る安全管理のための委員会の開催状況

平成20年度

年 1 2 回

・活動の主な内容

<所掌業務>

- (1) 医療安全対策の検討及び研究に関すること
- (2) 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること
- (3) 医療安全対策のための職員に対する指示に関すること
- (4) 医療安全対策のために行う提言に関すること
- (5) 医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること
- (6) その他、医療安全対策に関すること

<具体的活動内容>

1. 平成20年4月28日開催

- ① 3月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ② 平成20年度医療安全管理委員会委員の確認
- ③ 平成20年度リスクマネジャーの確認
- ④ 平成20年度第1回医療安全対策講習会実施結果報告

2. 平成20年5月19日開催

- ① 4月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ② 医療安全対策の実施事例報告について
- ③ 平成20年度第2回医療安全対策講習会実施結果報告
- ④ 平成20年度第1回リスクマネジャー委員会の実施について
- ⑤ 医療安全対策実技講習会「人工呼吸器操作訓練」の実施について

3. 平成20年6月23日開催

- ①5月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②ハイリスク領域における手術実施手順書の作成に伴う情報提供依頼について
- ③平成20年度第1回リスクマネージャー委員会実施結果報告
- ④インシデント・アクシデント影響度レベル（基準）について
- ⑤採血用穿刺器具の取り扱いについて
- ⑥適正な点滴薬管理の徹底について

4. 平成20年7月28日開催

- ①6月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②安全対策の実施事例報告について
- ③平成20年度第5回医療安全対策講習会実施結果報告
- ④平成20年度第6回医療安全対策講習会の実施について
- ⑤患者様からの相談・苦情の対応について
- ⑥医療安全対策に係る情報をホームページに掲載することについて
- ⑦「指差し・呼称確認」に関する宣言ポスターについて
- ⑧患者安全確保のための手順書の確認について
- ⑨造影剤使用についての説明書及び承諾書の変更について

5. 平成20年8月25日開催

- ①7月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②救急カート標準配置品一覧の確認について
- ③「アレルギー薬チェック機能（操作方法）」の周知徹底について
- ④平成20年度医療監視の実施について
- ⑤医薬品の安全使用のための業務手順書の改正
- ⑥異状死の届出を行った事例における対応方法について（検証）
- ⑦医療安全管理委員会メンバーによる安全パトロールの実施について

6. 平成20年9月24日開催

- ①8月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②医療安全管理委員会メンバーによる安全パトロールの実施結果報告
- ③平成20年度医療監視実施結果報告について
- ④転倒・転落RM小委員会からの要望について
- ⑤入院患者の誤認防止策について
- ⑥医療安全対策講習会参加者への手当て等について

7. 平成20年10月27日開催

- ①9月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②インシデント事例における改善策について
- ③ポケット版マニュアルの改正について
- ④インシデント・アクシデント報告件数の分析について
- ⑤中心静脈カテーテル挿入に関する認定医制度について

8. 平成20年11月26日開催

- ①10月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②医療安全対策ビデオ講習会実施結果報告について
- ③私立医科大学附属病院間における相互チェックの実施について
- ④平成20年度医療安全推進週間の取り組みについて
- ⑤輸血部からの要望について

- ⑥医療安全対策講習会の実施について（PETセンターからの要請）
- ⑦リスクマネジャー小委員会からの要望について
（インフォームド・コンセントRM小委員会、誤認防止RM小委員会）

9. 平成20年12月24日開催

- ①11月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②アクシデント事例における改善策について
- ③平成20年度第8回医療安全対策講習会実施結果報告について
- ④医療安全対策講習会の実施について（放射線部からの要望）
- ⑤薬剤RM小委員会からの要望について
- ⑥医療安全全国共同行動「いのちをまもるパートナーズ」について

10. 平成21年1月26日開催

- ①12月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②麻薬鎮痛剤「レミフェンタニル」の適正使用について
- ③平成20年度医療安全対策講習会出席状況（上半期）の通知について
- ④私立医科大学相互チェック実施結果報告について
- ⑤RM小委員会活動内容報告会の実施について
- ⑥アクシデント事例における改善策について
- ⑦リスクマネジャー小委員会からの要望

11. 平成21年2月23日開催

- ①1月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②医療安全対策講習会実施結果報告について〔第9回〕〔第10回〕
- ③平成20年度第11回医療安全対策講習会の実施について
- ④ホームページの更新について
- ⑤「化学療法における血管外漏出の対応」について
- ⑥行動制限（抑制・拘束）に係る同意書について

12. 平成21年3月23日開催

- ①2月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②平成20年度第11回医療安全対策講習会実施結果報告について
- ③平成21年度医療安全対策講習会実施計画書（案）の確認について

⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

平成20年度
年 12 回

・研修の主な内容

○オリエンテーション（対象：平成20年度新入看護師）

開催日：平成20年4月1日、2日、11日 午後2時から3時

形態：講習会

講師：医療安全対策課 安全管理者 渡辺 いつ子

演題：「医療安全に関する当院での現状」

内容：当院の医療安全体制について、解説がなされた。

参加者：187名

○オリエンテーション（対象：平成20年度臨床研修医）

開催日：平成20年4月17日（木）午前9時から午後4時30分

形態：実技講習会

講師：テルモ株式会社 社員

演 題：「模擬腕を使用した静脈穿刺・採血（体験学習）」

「輸液ポンプ、シリンジポンプの安全な使い方（体験学習）」

内 容：平成20年度臨床研修医が模擬腕を使用して静脈穿刺・採血、輸液ポンプ、シリンジポンプの安全な使い方を体験した。

参加者：49名

○第1回 開催日：平成20年4月17日（木）午後5時から7時

形 態：講習会

講 師：テルモ株式会社 学術情報部 渡辺 愛弓 先生

演 題：「医療事故防止への取り組み」

内 容：「医療機関を取り巻く状況」、「リスクマネジメントに係る用語」、「原因思考の考え方で事故防止に向けての取り組み方法」について解説がなされた。

参加者：599名

○第2回 開催日：平成20年5月9日（金）午後5時から6時30分

形 態：講習会

講 師：東京女子医科大学病院 病院長 永井 厚志 先生

演 題：「心臓手術事故から学んだこと」

内 容：当該病院が抱えていた問題点や苦悩、また医療事故を教訓にどのような医療安全対策を推進してきたのかについて、解説がなされた。

参加者：739名

○第3回 開催日：平成20年6月13日（金）午後5時から6時30分

形 態：講習会

講 師：医療安全対策課 安全管理者 渡辺 いつ子

演 題：「危険予知トレーニング（KYT）」

内 容：例題に対して危険因子の洗い出し及び対策について、解説がなされた。

参加者：24名

○第4回 開催日：平成20年6月19日（木）午後5時から7時

形 態：実技講習会

講 師：医療機器安全管理責任者 崎尾 秀彰 先生 並びに臨床工学技士14名

演 題：「人工呼吸器操作訓練」

内 容：人工呼吸器の安全な操作方法について、実技を通して解説がなされた。

参加者：61名

○第5回 開催日：平成20年7月1日（火）午後5時から6時30分

形 態：講習会

講 師：①医薬品安全管理者 越川 千秋

②自治医科大学 メディカルシミュレーション センター長

医療安全学 教授 河野 龍太郎 先生

演 題：①「健康被害救済制度について」

②「ヒューマンファクター工学に基づくヒューマンエラー低減対策と活動」

内 容：ヒューマンエラー発生メカニズムや事故の構造を理解し、より効果的な改善策を立案するための手法について、解説がなされた。

参加者：584名

○第6回 開催日：平成20年10月29日（水）午後5時から7時

形 態：講習会

講 師：①医薬品安全管理責任者 越川 千秋

②東京大学医科学研究所 探索医療ヒューマンネットワークシステム部門
准教授 上 昌広 先生

演 題：①「ディロテップMTパッチの適正使用」
②「医療安全におけるコンセンサスの形成」

内 容：医療改革の現状と共に医療安全対策に関する意識向上について、解説がなされた。

参加者：548名

○第7回 開催日：平成20年11月20日（木）午後5時から6時30分

形 態：ビデオ講習会

講 師：東京女子医科大学病院 病院長 永井 厚志 先生

演 題：「心臓手術事故から学んだこと」

内 容：第2回のビデオ講習会を開催した。

参加者：187名

○第8回 開催日：平成20年12月1日（月）午後5時30分から7時

形 態：講習会

講 師：日本医師会総合政策研究機構 主任研究員 弁護士 水谷 渉 先生

演 題：「医療事故・医療訴訟について」

内 容：実例をもとに医療事故・医療訴訟について、解説がなされた。

参加者：271名

○第9回 開催日：平成21年1月29日（木）午後5時から6時30分

形 態：講習会

講 師：医療安全対策課 参事 鈴木 利教

演 題：「当院にて発生した暴力事案への対応結果及び提言」

内 容：当院における暴力事案をもとに、対応及び提言について解説がなされた。

参加者：386名

○第10回 開催日：平成21年2月13日（金）午後5時30分から7時

形 態：講習会 講 師：作家 海堂 尊 先生

演 題：「死因不明社会としないために Ai(Autopsy imaging)とは何か」

内 容：遺体をCTやMRIにかけて画像処理で死因を解明する「オートプシー・イメージング(Ai)について、解説がなされた。

参加者：359名

○第11回 開催日：平成21年3月10日（火）午後5時から6時30分

形 態：研修・発表会

講 師：リスクマネージャー小委員会

演 題：「RM小委員会における活動内容報告会」

内 容：各リスクマネージャー小委員会が年間活動内容及び検証結果について発表した。

参加者：95名

○第12回 開催日：平成21年3月13日（金）午後5時から7時

形 態：講習会

講 師：①獨協医科大学 RIセンター 放射線管理部 主任 高橋 克彦

②兵庫医科大学 放射線科 准教授 石蔵 礼一 先生

③兵庫医科大学 救急災害医学 教授 丸川 征四郎 先生

演 題：①「地震だ！試薬瓶、棚、冷蔵庫・・・どうする？RI施設における対策紹介」

②「大規模災害の経験と今後の課題：中央部門としての放射線部の立場から」

③「JR 福知山線列車事故に学ぶ大規模災害医療：

基幹病院としての負傷者受け入れ体制」

内 容：大規模災害における対策、基幹病院のありかたについて、解説がなされた。

参加者：264名

⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無)

・その他の改善のための方策の主な内容：

1) 外来採血室において他患者の検体容器と取り違えて採血を実施し、血液型を誤って発行した事例について、改善策として今後検体容器が2つになった場合には、1つの箱に合わせて入れるのではなく2段に重ねることとした。また、受付時の確認、採血時の確認については、ダブルチェックすることを改めて徹底した。

(平成20年5月委員会)

2) 島根県及び埼玉県内の医療機関において、複数の患者に使用しないことが明示されている採血用穿刺器具(ディスポーザブルタイプでないもの)を複数の患者に使用し、感染症の発生が疑われる事例が発生した旨の説明があった。医療安全管理委員会では、本事例の重大性を鑑み、採血用穿刺器具の適正な取扱い(今後穿刺針、採血用穿刺器具を使用する際には、器具全体がディスポーザブルタイプであるものを使用すること)について、改めて各部門・部署へ依頼した旨の報告があった。

(平成20年6月委員会)

3) 三重県にある某整形外科医院において、作り置きした点滴薬に細菌(セラチア菌)が混入し、点滴を受けた複数の患者様が腹痛などを訴え、うち2名が死亡するという事例が発生した。これを踏まえ、適正な点滴薬管理(今後点滴薬を準備する際には、絶対に作り置きは行わず、使用直前に準備すること)について審議した結果、委員より点滴薬を使用直前に準備するという基準が不明確であり、今後適正な点滴薬管理方法を感染防止対策課と協議した上で、改めて各部門・部署へ依頼していくこととなった。

(平成20年6月委員会)

4) IVH ルートが一部破損したため薬液と血液が逆流した事例(①背景要因：普段からルートが長く床を引きずっていた。②点滴台のキャスターがルートの上を登っていた。)について、改善策として今後適切な長さのルートを使用していくこととした。

(平成20年7月委員会)

5) 薬剤部にてムコダインドライシロップ調剤瓶の残量が少なくなったため、職種経験年数1・2年目の職員が確認しながら補充を行ったところ、注意不足からムコダインドライシロップ調剤瓶にムコダイン細粒を充填した事例について、今後このようなことが起こらないよう当該部署にて下記改善策を講じた旨の報告があった。

【改善策】

- ①細粒の取扱い中止の検討を行った。
- ②経験年数の少ない者同士での補充作業は行わない。
- ③補充作業の手順厳守を徹底する。
- ④遮光の必要のないものは褐色瓶から透明瓶へ変更する。
- ⑤入院と外来の瓶色・ラベル表示の統一を図る。

(平成20年7月委員会)

6) 腹部大動脈瘤術後の患者様に対し疼痛管理目的で持続硬膜外麻酔を施行していた際、カテーテルとポンプの接続部が外れた事例について、関連診療科と協議した結果、改善策として今後すべての持続硬膜外麻酔用カテーテルをロック式(三孔式ユニセット)に変更することとなった。
(平成20年7月委員会)

7) 患者様に退院処方をする際、医師が禁忌薬剤(アレルギー薬)をオーダーしてしまい、その後アレルギーに気付き処方を中止したものの、看護師が確認不足から中止の指示を見落とし、退院時に患者様へアレルギーのある退院処方薬を渡したという事例が報告された。

本件については、根本的な問題点として確認不足などの要因が挙げられるが、電子カルテにアレルギー対象薬品のオーダーを未然に防ぐ補助機能があるにも関わらず、病名やプロファイルなどの情報をマスタから選択・登録せずに、安易にワープロ入力していたためチェック機能が働かなかったことも一因であることが判明した旨の説明があった。

これらを踏まえ、再発防止策について情報処理室と協議した結果、アレルギー薬チェック機能については、既に導入されていることが確認できたことから、関係部署に周知徹底文書を配布し、注意喚起を行った旨の報告があり、了承された。

(平成20年8月委員会)

8) 転倒・転落事故については、年間739件が院内で発生しており、事故が原因で骨折や頭部外傷を生じるケースも多く報告されている。分析の結果、発生の一つの要因として、教職員の観察不足や患者様への説明不足が挙げられる。

これらを踏まえ、事故を未然に防止するため、教職員並びに患者様への啓蒙活動を積極的に実施し、転倒・転落の危険性を改めて確認させることが肝要であるとの考えに至った旨の説明があった。

【転倒・転落事故防止に向けた啓蒙活動】

①現在試験的に運用している啓蒙ポスター・リーフレットを病院全部署にて活用すること。

②安全シールを作成した上で、転倒・転落が発生しやすい場所に貼付すること。

③転倒・転落事故防止のための配付グッズを作成し、患者様にお配りする。

上記①～③について検討した結果、転倒・転落事故防止に向けた啓蒙活動を実行していくことが了承された。

(平成20年9月委員会)

9) 他院にて麻薬鎮痛薬「レミフェンタニル(アルチバ)」の投与ミスがあり、患者が意識不明の重体となる医療事故が発生した事例について、当院においても調査した結果、“病棟で「レミフェンタニル」は使えないのか”と医師から薬剤部に問い合わせが寄せられており、がん疼痛にも使用できる「フェンタニル」と薬剤名が酷似しているため、新しい麻薬鎮痛薬という認識をもたれる可能性がある旨の説明があった。

これを踏まえ、麻薬鎮痛薬「レミフェンタニル」の適正使用(適応:人工呼吸器を装着した全身麻酔のみ)について、関係部署へ注意を促すことを目的に、周知徹底文書を配布した旨の報告があり、了承された。

(平成21年1月委員会)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>【基本指針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染防止対策に関する基本的な考え方 ・ 院内感染防止対策委員会・その他の組織に関する基本的事項 ・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 ・ 感染事例報告などの医療にかかわる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ・ 施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針 ・ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ・ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>患者及び教職員への院内感染を防止し、またその対策を講じ、病院内の環境保全と安全衛生を確保するために、院内感染防止対策委員会を設置し、院内感染防止に関する諸施策及び感染症患者取扱いの基本的事項等について審議する。</p> <p>【委員会での内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回議事の確認 ・ 院内ラウンドの報告 ・ 病原体の検出報告 <ul style="list-style-type: none"> ①MRSAと緑膿菌の検出状況 ②血液培養陽性者リスト ③監視培養のMRSA陽性率 ④病棟別検出菌上位10菌種 ⑤薬剤耐性菌（MDRP, ESBL, β-BL産生菌）検出患者 ・ 抗MRSA薬使用状況 ・ カバペム系薬使用状況 ・ 第4世代セフェム系抗菌薬の使用状況 ・ 病棟別抗菌薬使用状況 ・ 感染症発生報告書提出件数 ・ ICT委員が知っていると便利な微生物学知識 ・ その他（その月の審議事項及び事例報告等） <p>【委員会開催日】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 平成20年 4月22日 第2回 平成20年 5月27日 第3回 平成20年 6月24日 第4回 平成20年 7月29日 第5回 平成20年 8月19日 第6回 平成20年 9月30日 第7回 平成20年10月28日 第8回 平成20年11月28日 第9回 平成20年12月26日 第10回 平成21年 1月27日 第11回 平成21年 2月24日 第12回 平成21年 3月31日 	

<p>③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況</p>	<p>全教職員対象 年 5回 部署別講習 年 3回</p>
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【全教職員対象講習会】</p> <p>第1回 開催日及び参加人数： 平成20年6月26日 831名 演題及び発表者： 『ワクチンと感染症予防』 微生物学 増田道明 先生 小児科学 今高城治 先生 臨床検査部 池田眞由美 保育所 津村勝枝</p> <p>第2回 開催日及び参加人数： 平成20年7月25日 741名 演題及び発表者： 『感染症と感染症法』 栃木県県南健康福祉センター 健康福祉部健康対策課長 渡辺晃紀 先生</p> <p>第3回 開催日及び参加人数： 平成20年11月6日、11日、13日、14日、18日 941名 演題及び発表者： 『知っている得する！感染対策 ノロウイルス&インフルエンザウイルス』 感染防止対策課 奥住捷子 看護部ICT 香取三奈</p> <p>第4回 開催日及び参加人数： 平成21年2月24日 308名 演題及び発表者： 『針刺し切創の現状と防止策』 看護部ICT 香取三奈</p> <p>第5回 開催日及び参加人数： 平成21年3月17日 335名 演題及び発表者： 平成21年3月19日 215名 『平成20年度 ICT活動報告』 臨床検査医学 菱沼 昭 先生、薬剤部 蘇原由貴 看護部ICT 実験グループ、企画・広報グループ、佐藤真弓 看護部ICT 島田江津子、薬剤部 星野浩一</p> <p>【部署別講習会】</p> <p>第1回 委託職員対象（東武ビルマネジメント、白栄社、東武レストラン）、栄養部 開催日： 平成20年6月4日、6日、11日、13日 参加人数： 284名 内 容： 手洗いと手指消毒の効果</p> <p>第2回 委託職員対象（東武ビルマネジメント、白栄社、東武レストラン、材料部） 開催日： 平成20年11月13日、14日、20日、21日 参加人数： 174名 内 容： 知っている得する！感染対策 ノロウイルス&インフルエンザウイルス</p> <p>第3回 委託職員対象（東武ビルマネジメント、白栄社、東武レストラン）、栄養部 開催日： 平成21年1月21日、22日、平成20年11月18日、20日 参加人数： 243名 内 容： 手の衛生について</p>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 多剤耐性菌検出部署での独自マニュアル作成
 - ・ 各部署での感染防止対策マニュアルの作成
 - ・ 日光医療センターで検出された菌や対策についてのコンサルテーションなど
 - ・ とちぎ地域ネットワーク事業で医療安全産業振興セミナーを開き、産学共同で施設内感染対策器具の改善・改良を行っている

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○健康被害救済制度について ○注射薬を安全に調整するために ○抗がん剤の副作用について ○麻薬製剤「ディロテップMTパッチ」の適正使用 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (○・無) ・ 業務の主な内容： <p>医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、在宅患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・提供、手術・麻酔部門、救急部門・集中治療室、輸血・血液管理部門、生命維持管理装置領域、臨床検査部門、画像診断部門、歯科領域、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修。</p> 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ 同一薬品名で2種以上の規格のある医薬品の調剤容器への警告標の提示 ○ 類似名称のある調剤容器に、類似名称が存在する旨と、名称の異なる点の強調警告標の提示 ○ カリウム製剤アンプルのワンポイント部分への「静注禁止」と記載したシールの貼付 ○ ハイリスク薬における併用禁忌薬の具体的医薬品名を書き出したチェック標の提示 ○ バラ錠のタブレットケースへ充填時の2名によるダブルチェック ○ 薬剤師による消化器系の入院患者の抗がん剤の無菌調製の開始 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年22回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療安全対策講習会（人工呼吸器・除細動器）3回 臨床工学部による病棟単位の人工呼吸器勉強会（取扱説明等）5回 臨床工学部による人工心肺装置及び補助循環装置勉強会（取扱説明等）2回 臨床工学部による血液浄化装置勉強会（取扱説明等）4回 製造販売業者による閉鎖式保育器研修会（取扱説明等）1回 製造販売業者による診療用高エネルギー放射線発生装置勉強会（取扱説明等）4回 製造販売業者による診療用放射線照射装置勉強会（取扱説明等）3回 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の策定 （有・無） ・ 保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 保守点検記録表に基づく点検の実施 保守点検記録表の保管・管理 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療機器の安全使用のために必要な不具合情報や安全性情報を、製造販売業者等から収集し、病院長及び医療機器安全管理責任者へ報告するとともに、関連部署へ周知徹底 医療機器の添付文書・取扱説明書等の保管・管理 	